

ぶんせいしちねんめい そうもくくようとう  
文政七年銘 草木供養塔

市指定有形民俗文化財

荻小学校の校門脇に、台座を含め高さ 99cm 幅 73cm の自然石から造られた文政 7（1824・江戸時代）年銘の草木供養塔が立っています。

草木供養塔とは、樹木や草花などの植物を人間と同じように命あるものにとらえて供養の心を表した石碑です。多くは自然石に「草木供養塔」あるいは「草木塔」と刻まれています。全国で最も古い草木塔は、米沢市田沢地区にある安永 9（1780）年 7 月と 8 月銘のある 2 つの草木塔で、石碑はなぜか米沢市を中心として置賜地方に集中的に分布しています。県内はもとより全国的にみても珍しい石造物として注目されています。

草木塔は平成に入ってから新たに増え続けており、県外はもとより国外（パラグアイ）にまで建立されています。「置賜の民俗・第 19 号」（置賜民俗学会著）によると、平成 24 年現在で 201 基の草木塔が確認されており、その中の 34 基が江戸時代に建立されたものです。南陽市内には、文政 7 年銘の草木供養塔のほかにも、3 基の供養塔がありますが、いずれも平成に入ってから建立されています。

さて文政 7 年銘の草木供養塔ですが、石碑表面には「文政七年八月祥日/草木供養塔/五左衛門」と刻まれており、建立者は「五左衛門」とみられています。彼は宮の下に住む身長 6 尺もある力持ちの男で、地区の西側奥にある太平山で多くの樹木を伐採して荻近くまでそれを運ぶ仕事をしていたといいます。五左衛門は木こりとして多くの樹木伐採を職業としていたことから、草木供養塔の建立につながったとの伝承が石碑建立の背景や動機を暗示しています。

なお、草木供養塔に向かって左脇には「南無阿弥陀仏」の供養碑も並んでいます。これら石碑のある敷地は明治時代までは墓地の一部であったとも伝えられています。



荻小学校校門脇に立つ草木供養塔（右）

南陽市文化財保護審議委員 菊地和博  
平成 26 年 10 月 1 日号 市報なんよう掲載